

あるじ  
**金鈴塚古墳の主に迫る**

**日時：令和元年11月9日(土)**  
**10時～15時30分**

※途中1時間の休憩があります

**場所：木更津市民会館 中ホール**  
(木更津市貝淵二丁目13番40号)

**入場  
無料**

パネラー

大谷 晃二氏

小林 孝秀氏

須永 忍氏

土屋 隆史氏

宮代 栄一氏



問い合わせ：木更津市教育委員会教育部文化課

Tel:0438(23)5314 Fax:0438(25)3991

[bunka@city.kisarazu.lg.jp](mailto:bunka@city.kisarazu.lg.jp)

あるじ

# 「金鈴塚古墳の主に迫る」

金鈴塚古墳の時代に造詣が深い5名のパネラーのそれぞれの視点から、金鈴塚古墳の被葬者に迫ります。木更津市民の方はもちろんのこと、金鈴塚古墳に関心のある方、気になっている方は、ぜひご参加ください。

日時：令和元年 11月9日(土) 10時～15時30分

場所：木更津市民会館中ホール（木更津市貝淵二丁目13番40号）

木更津駅西口よりイオンモール木更津経由君津駅南口行き 日東交通バス  
木更津駅西口9時15分発・9時35分発（所要約6分）。木更津市民会館前下車。  
木更津駅西口から徒歩約20分。駐車場の台数には限りがあります。



定員：200名（先着順） 参加費無料

内容：10時～12時

## 1 「飾大刀から金鈴塚古墳の主に迫る」（大谷晃二氏：松江北高校）

大谷氏の主な論文：『上塩冶築山古墳の研究』（共同執筆）、島根県古代文化センター、1999年。「日韓の龍鳳文環頭大刀の展開」『古墳出土金工製品の日韓比較研究』、2004年。「金鈴塚古墳出土大刀の研究（1）」『金鈴塚古墳研究』第3号、2015年

## 2 「馬具から金鈴塚古墳の主に迫る」（宮代栄一氏：朝日新聞社）

宮代氏の主な論文：「古墳時代雲珠・辻金具の分類と編年」『日本古代文化研究』第3号、1986年。「古墳時代の鞍金具の研究」『日本考古学』第3号、1996年。「金鈴塚古墳出土馬具の研究」『金鈴塚古墳研究』第2号、2014年

## 3 「装身具から金鈴塚古墳の主に迫る」（土屋隆史氏：宮内庁書陵部）

土屋氏の主な論文：「金銅製飾履の製作技法とその展開」『古代文化』第64巻第4号、2013年。「古墳時代における広帯二山式冠の出現とその意義」『日本考古学』第40号、2015年。『古墳時代の日朝交流と金工品』、雄山閣、2018年

～休憩～

13時～14時10分

## 4 「石室、石棺から金鈴塚古墳の主に迫る」（小林孝秀氏：松戸市立博物館）

小林氏の主な論文：「南関東における横穴式石室の諸系譜」『専修史学』第44号、2008年。『九州系横穴式石室の伝播と拡散』（共著）、北九州中国書店、2009年。『横穴式石室と東国社会の原像』、雄山閣、2014年

## 5 「古代史から金鈴塚古墳の主に迫る」（須永忍氏：高崎市教育委員会）

須永氏の主な論文：「東国の国造制」『国造制の研究-史料編・論考編-』、八木書店、2013年。「古代山武地域の氏族とヤマト王権」『千葉史学』第65号、2014年。「古代駿河中部の氏族とヤマト王権」『国造制・部民制の研究』、八木書店、2017年

14時20分～15時30分

発表を受けてのパネラーの討論

※発表順は変更の可能性があります。

受付：令和元年9月9日（月）9時から

申込方法：文化課窓口での直接申込み、または  
電話・FAX・メールにて  
木更津市役所教育部文化課窓口  
（木更津市朝日3-10-19 朝日庁舎内）  
電話 0438 (23) 5314  
FAX 0438 (25) 3991  
メール [bunka@city.kisarazu.lg.jp](mailto:bunka@city.kisarazu.lg.jp)

※いずれの場合も、参加される方の氏名・住所・電話番号をお伝えください。

お願い：定員が限られていますので、ご都合が悪くなった方は、事前にその旨の連絡をお願いします。

